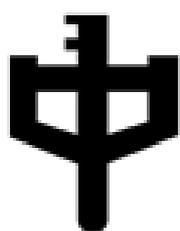


令和5年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例



佐世保市立吉井中学校

校訓：「耕心」

所在地：佐世保市吉井町前岳3番地2

校長名：松井 弥伸

生徒数：141名（10学級）

1 特色ある学校づくりに対する基本姿勢

校訓である「耕心」の精神のもと、「これからの社会的課題を解決し、自ら生きる力を培う教育の充実」をテーマとし、その具現化のために『キャリア教育の充実』『人権意識の向上』『社会性の育成』『夢・志を育てる』の4つを実践目標として、特色ある学校づくりを推進し、実践した。

2 実践内容

(1) キャリア教育の充実

【2学年】<9月13日(水)~9月15日(金)>:地域(吉井町内外)

吉井町内外の21か所の事業所において職場体験学習を実施。



【1学年】<1月~2月>:校内

職業調べ学習を行い、新聞やスライドにまとめ発表会を実施。

【2学年】<12月~2月>:校内

高校調べを行い、新聞やスライドにまとめた。

【3学年】<通年>校内

面接練習や進路資料の掲示東雄通じて進路学習の充実を図った。



(2) 人権意識の向上

【全学年】<6月29日>:校内

NPO 法人佐世保空襲を語り継ぐ会から講師を招いて「6.29 平和集会」を実施。



【1学年】<12月7日>:校内
助産師の先生を招いて
生徒と保護者へ向けた
「性教育講演会」を実施。



【全学年】<12月8日>:校内
今年度は「生命の尊さ」について焦点を当てた人権集会を実施。



【教職員】<3月5日>:校内(オンライン)
日本スクール・コンプライアンス学会長(日本女子大学教授)を講師に招き、「体罰・不適切な指導の根絶」の校内研修を実施。

(3) 社会性の育成

【全学年】<10月25日>校内及び校区内
全校生徒と地域・保護者で校区内の清掃活動「地域クリーン作戦」を実施。



【全学年】<12月14日>校内
全生徒と保護者を対象に、眼科医によるメディア教育講演会「目とメディア」を実施。

【全学年】<10月19日>校内
音楽コンクールでは、昨年度と同様に
作曲コンクールと合唱コンクールを実施。



【1学年】<11月20日、21日>校内
佐世保魚市場協会と協働で1学年を対象に
「お魚料理教室」を実施。



【全学年】<通年>校内及び校区内
生徒会の発案で一昨年度から参加している
「福島ひまわり里親プロジェクト」に今年度も参加。



【1・2学年】<12月6日>校内
1・2学年生徒を対象にi-checkの2回目を学校
独自で実施。

(4) 夢・志を育てる

【1学年】<11月～12月>校内
吉井地区コミュニティセンターと協働して
地域学習「地域のよかところみつねね
～地域で頑張る大人たち～」を実施。



4 成 果

- 学校と地域・保護者で「地域クリーン作戦」を実施し、校区内の清掃活動を行った。保護者や地域と協働しながら体験活動を積極的に進め、地域社会の一員としての自覚や地域に貢献する態度を育てることにつながった。
- 1学年では佐世保魚市場協会と協働で「お魚料理教室」を実施した。ほとんどの生徒が初めて魚の三枚おろしに挑戦し、自分が食べる分を自分でさばいて調理するという貴重な体験をすることができた。この体験を通して、技能の習得だけでなく、日ごろ食べている食事を作ってくれる方々への感謝の気持ちを育むことができた。
- 2学年では職場体験学習を行った。地域の企業や事業所の協力を得て実施した。これにより将来の職業選択と社会貢献への意識向上につながることができた。
- 1、2学年生徒に対して、i-checkの2回目を学校独自で実施した。1回目の結果を受けて、生徒にどのような変容が見られたのか、2回目の調査で検証することができた。この検証を教育相談にも活用し、一人一人に目を向けた教育の実現につながることができた。
- 今年度は「生命の尊さ」について焦点を当てた人権集会を実施した。事前に「命の大切さに関する意識調査」のアンケートを行い、その集計結果から、ほとんどの生徒が命よりも大切な

ものはないと感じていることが分かった。また、アイスブレイキングや人権映画の鑑賞などの活動を通して、命はかけがえのないものであることに気づくことができた。

- 助産師の先生をお招きし、生徒と保護者へ向けた「性教育講演会」を実施した。命の誕生について貴重な講話を聞き、自他の生命の尊さを学習することができた。
- 眼科医の先生をお招きし、「目とメディア」と題してメディア教育講演会を実施した。生徒たちは目の健康やコンタクトレンズなどの正しい使い方に大変興味を持ち、今後は目を大切にしていきたい、メディアとの付き合い方に気を付けたい、という感想がたくさん見られた。
- 1学年では、吉井地区コミュニティセンターと協働して、総合的な学習「地域学習」を行った。「地域のよかところみつねね～地域で頑張る大人たち～」と題して、吉井地区自治協議会の様々な取り組みについての講話やグループワークを通して、地域への愛着と感謝の気持ちの向上につなげることができた。
- 生徒会の発案で一昨年度から行っている「福島ひまわり里親プロジェクト」を今年度も実施した。生徒会を中心に全生徒を巻き込んでのボランティア活動を通して、思いやりの心や郷土愛、人間愛を育む機会となった。PTA 役員の協力もあり、地域とのつながりを深めることができた。
- 「体罰・不適切な指導の根絶」の校内研修を実施した。現代の日本社会の「教員・学校に対する見方」を知り、教員としての自分自身を客観的に見つめ直す良い機会となった。また、裁判事例を通して、体罰や不適切な指導が生徒や保護者に与える影響だけでなく、教員自身の人生やその家族の人生にも多大な影響を与えてしまうリスクがあることや、指導や支援は学校が組織的に協働して行うことの重要性について再確認することができた。今後も、体罰及び不適切な指導のない教育環境づくりに尽力していく。

5 今後の課題

今年度はほとんどの活動を計画通りに実施することができた。しかし、県内外で活躍するスポーツ選手や経営者等を招いた講演会を実施することができなかった。感染症対策は十分に行ってきたが、集団感染等の心配もあり実施のタイミングを逸してしまったので、来年度は早めの計画を立てるとともに、生徒たちの健康管理を十分に行っていきたい。

1学年、2学年については、i-checkの2回目を実施したことで、生徒にどのような変容が見られたのか検証することができたが、検証結果の共有が3学期の半ば頃になったため、今年度の学級経営や授業に十分に生かすことができなかった。来年度は実施時期を検討し直し、年度内に活用できるようにしたい。

「地域クリーン作戦」は、本校生徒会とPTAが中心となり、保護者の方と協働して取り組む活動であるが、保護者の参加者のほとんどが役員で、役員以外の保護者の参加がなかった。大変有意義な活動であり、地域との結びつき、保護者とのふれあいを実感できる活動なので、アナウンスを十分に行い、今後も継続して実施していきたい。

今年度も吉井地区コミュニティセンターと吉井地区自治協議会と協働でふるさと学習（地域学習）を実施したが、年度当初の打ち合わせが十分にできず、昨年度よりも大幅に時数を減らして実施することになった。地域の方々の期待も大きく、生徒の地域への愛着と感謝の気持ちを育むためにも、1年生の総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、時数の確保を行っていききたい。